

一橋大学大学院—公共政策セミナー I (2011 年度上期)—

第 13 回講義：まとめ(山重先生)

「公共経営論」

(株)大和総研／産学連携室

講義日（場所）	講義概要／質疑応答
7/21(木)16:15 （神田・学術総合センター：4F 第 5 講義室）	< 講義概要 > ・ 今回の全講義の流れを確認。全ての議論の背景には、公債残高の積み上がりがある。「市場の失敗」の問題を改善するために「公営事業」や「規制」などが行われる。しかし、そこには「政府の失敗」がある。 ・ 「政府の失敗」の問題を改善するために、「民営化・官民連携」や「ガバナンス改革」が行われる。「公営事業」の見直しを行う場合があるが、その場合、事業資産の「所有」と事業の「経営」を分けて考えた方が分かりやすい。 ・ 民間事業者の場合、「市場の失敗」の問題を緩和するために政府が「規制」を行ってきた。そして、民間事業者に「社会的責任」を果たすように求めること（自主規制）が一つの手法として広がっている。 ・ これからの「公共経営」では、市場経済における「市場の失敗」をいかに緩和していくかと考えることができる。 < 聴講生の感想 > □ テーマに関して ・ 今回の講座で、これまで普通に見聞きしてきた PFI、民営化などの本当の意義や問題点などがはっきりし、関心が高まった。 ・ 今後の政策課題として扱われるようなテーマが並んでおり参考になった。行政官としては法学的アプローチが中心だったが、経済的な分析とロジックが重要であることを改めて認識した。 ・ 具体的な公共事業体を見ていく中で、民営化が必ずしもベストな訳ではないことが改めて分かった。 ・ いずれも難しい課題であったが、公共事業体の経営を考える場合には、ストックとフローをしっかり分離して検討することが重要だと感じた。 □ 講座の運営について ・ グループをベースにプレゼンを行うのは、他の講座にはなく良かった。特に、世代の異なる方々と共同でプレゼン資料を作成していくのは良い経験にもなった。 ・ 幅広いキャリア（社会人、外国人）の人が出席しており、色々な意見や考え方に触れることが出来て参考となった。

以上